



令和6年3月28日
延岡市立岡富小学校
校長 田中 芳郎

令和5年度が終わります



3月23日(土)、第114回の卒業式が盛大に行われました。62名の卒業生は、張り詰めた緊張感の中、みんな堂々とした態度で式に臨んでいました。一人一人が大変立派な姿でした。子どもたちの門出を祝福するにふさわしいすばらしい場であったと感じました。

卒業式は運動会と並んで、学校にとって大きな行事です。練習も何度も重ねてきましたが、それ以外にも様々な準備がなされています。例えば、会場作りでは、5年生が中心となってフロアーマットを敷いたり、机やいすを並べたり、装飾を行ったりしました。また、花は、技術員さんが種からまいて半年ほどかけて育てたものです。その他にもそれぞれが役割を分担して関わりながら、当日を迎えることができました。みんなで作り上げた卒業式でした。

また、3月26日(火)には、修了式がありました。修了証書をそれぞれの学年の代表に手渡しました。(この日の夕刊にも取り上げられました。)びっくりしたのは、それぞれの学年の代表以外の子どもたちも、受け渡しの際に、大変折り目正しくしっかりした態度で臨んでいたことでした。みんな一人一人が、学年の終わりにふさわしい、しっかりした気持ちをもっていったことの表れだと感じました。

二宮金次郎像が修理完了！

3月のはじめに、「卒業生ですが…」とのお電話を、北九州にお住まいの方からいただきました。「学校ホームページで見たのだが、二宮金治郎像の腕が壊れたままになっていることを知り、修理に協力したい。」というものでした。そして、それから少しして、今度は、お電話をくださった方から連絡を受けたという地元にお住まいの、やはり卒業生の方から、「うまくいくかどうかわからないが、修理をやってみます！」とのお申し出がありました。それから、2週間ほどの間に、まず、素材の調査から始まって、修理の方法を決め、作業が始まりました。



銅像の材質を調べ、その上で、本体と左手部分を2本の金属棒でつないで固定することとなりました。想像していた以上に大がかりな作業でした。

記録を調べてみたところ、金治郎像の左手から先が壊れて落ちてしまったのは、令和2年のことだとわかりました。一度は修理を試みたのですが、そのときはうまくいかずに、落ちた部分は校長室に保管されることになったのでした。

金属棒でつないで強力なボンドで固定して、1週間ほど様子を見て、3月22日に修理完了となりました。今回、修理に当たってくださったのは、卒業生で市内で校区内の古川町にある南九州技研の山光孝憲様と従業員の方のお二人でした。見事に金次郎像は、前の姿に戻ることができました。金次郎さんも、きっと喜んでいることと思います。ありがとうございました。いとお申し出に、感謝するばかりでした。本当にありがとうございました。(工事の詳しい様子は、学校ホームページに掲載しております。)